院　長

福治康秀(ふくじ　やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。

基本理念

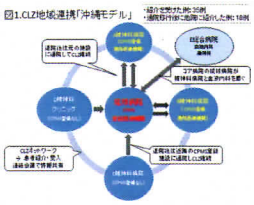
この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

琉球病院でのクロザピン治療
－第10回「臨床精神薬理」誌賞の症例報告賞の受賞に際して－

琉球病院　木田直也

Ⅰ.今回の受賞論文について
私たちの論文「Clozapineによる無顆粒球症6例の報告」が「臨床精神薬理」誌の第17巻（2014年）8号に掲載され、第10回「臨床精神薬理」誌賞の症例報告賞に選ばれました。この論文の要旨は「琉球病院で102例の治療抵抗性統合失調症例にクロザピン（CLZ）治療を行い、6例の無顆粒球症の発現があった。発現年齢は50歳～67歳で、発現時期はCLZ開始後20週以内であった。総合病院で入院治療を行ったもの（転院群）が3例、当院で入院治療を継続したもの（非転院群）が3例で、全例とも重篤な全身状態となることはなく無顆粒球症から回復した。当院での発現頻度が高い要因として、CLZ患者群の年齢の高さや県民の遺伝的特性などが関係している可能性がある。CPMS（Clozaril Patient Monitoring Service）規定を遵守し、検査体制を整え、血液内科と連携して身体的治療を行うことが無顆粒球症の重篤化の回避や罹患日数の短縮につながる」というものです。当院では多職種チームでCLZ治療に取り組んでおり、そのことについても評価をしていただいたと考えています。この拙文が無顆粒球症への不安を少しでも軽減し、CLZ治療を広める一助となることを願いつつ、これからも患者さんを中心としたチーム医療に精進していきたいと思っています。

Ⅱ.CLZ地域連携「沖縄モデル」への取り組み
当院では2015年2月までに131例の治療抵抗性統合失調症例にCLZ治療を行いました。このうち38例は他の医療機関からのCLZ導入目的での紹介例です。患者さんはCLZ導入のために入院し、退院後もCPMS登録施設に定期的に通院し、血液検査を受ける必要があるため、これまで遠方に居住地がある患者さんが退院した場合は、自宅近くの登録施設に紹介してCLZ治療を継続していただいています。この通院移行後の紹介例は18例でした。
このような経験から2014年9月に沖縄県・県内医療機関と協同し、CLZ地域連携「沖縄モデル」を立ち上げました（図1）。



当院がコア病院となり、県内の全ての精神科病院・クリニックから適応症例の紹介を受けてCLZ導入のための入院治療を行い、退院後は自宅近くの施設で通院治療を継続していただくというものです。通院移行後に無顆粒球症が発生した場合には、当院が窓口になり、総合病院血液内科と連絡をとり、身体的治療も進めていきます。この連携は厚生労働省の進める難治性精神疾患地域連携体制整備事業のモデル事業としても承認されました。沖縄モデルの目標は、県内のどこに住んでいてもCLZ治療を受けることができ、退院後も自宅近くの施設で通院治療を継続することです。沖縄モデルと同様の地域連携体制が全国各地で整備され、国内のどこに住んでいてもCLZ治療を受けることができることを強く願っています。

診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 406床

精神科病棟	181床
認知症	50床
アルコール	54床
児童思春期ユニット	4床
重症心身障がい	80床
医療観察法	37床

那覇市からのアクセス

●アクセス
路線バス／那覇BS(下り)または名護BS(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自 動 車／那覇市から40分
沖縄自動車道道金武インターから名護向け5分

トピックス

行事・出来ごと

●病棟等建替整備の動き

進捗状況　本体工事：請負業者	電気設備	・・・・・・	(株)九電工
	機械設備	・・・・・・	(株)三建設備工業
	建築(第１期)工事	・・・	(株)淺沼組
	建築(第２期)工事	・・・	(株)淺沼組

教育・研修

●新規採用職員等研修会　平成27年4月3日(金)～4月7日(火)3日間　9:00～16:00　研修棟3F研修室　【院内対象】
●新規採用看護職員等研修会　平成27年4月3日(金)～4月9日(木)5日間　9:00～16:00　研修棟3F研修室　【院内対象】

地域医療連携室だより

外来受付の奥に、相談室（地域医療連携室）があることを皆様ご存知ですか？相談室では、精神保健福祉士が常駐しており、患者様やご家族からの相談に対応しております。「最近調子が悪いみたい」「障害年金って自分は受けられるのかな？」「そろそろ仕事したいけど自信ない」等、心理社会的相談や経済的相談等、お困りごとがあれば気軽にご利用下さい。電話、来所どちらでも対応しています。

空床状況　3月25日現在

精神科病棟	認知症	アルコール	児童思春期ユニット
4床	2床	3床	2床

※ 入院予約に関するお問い合せは地域医療連携室へご相談下さい。

お問い合わせ時間
8:30～17：15（土・日・祝日以外）
TEL：098－968－2133（代）
内線：231・234
FAX:098－968－7370
地域医療連携室直通

治療抵抗性精神疾患への医療

クロザピンの治療状況

平成22年2月に1例目のクロザピン治療を開始し、全症例は131例になりました。平成27年2月の新規導入は3例でした。このうちの2例は他の医療機関に入院され、不穏・興奮などのために長期に渡って隔離をされていた患者様がクロザピン導入目的で当院に転院になったものです。導入後1ヶ月で1例は隔離を解除し、外出訓練を開始しています。もう１例は解放時間を作り、行動拡大を図っています。重度の精神症状を持った患者様が回復され、その退院数も60例を超えています。週に3回の専門外来も行っていますので、治療抵抗性統合失調症の患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECTの治療状況

当院では、県立北部病院麻酔科のご協力の下、m-ECTによる治療を行っております。平成27年2月の治療実績3例であり、各症例とも改善傾向が認められております。

こども心療科

こども心療科は現在15歳までを対象としております。15歳以上は成人の外来、思春期・青年期こころのリスク外来での診察となります。今回は思春期・青年期こころのリスク外来での保護者会の取り組みについてご紹介します。

思春期・青年期に初めて自閉症スペクトラムやADHDと診断され、特性の理解や周囲の対応、社会資源や就労などご本人もご家族も戸惑われることが多く、当院でもそういった患者様やご家族にお会いする機会が増えておりました。そこで保護者の学習会を4回シリーズで企画し、就労については障害者職業センターから講師をお招きして実施しました。毎回8～9人の保護者が参加され、勉強会終了後も熱心に意見交換される様子がみられました。今後も継続を希望する声が多く、ニーズも高いことから、内容や時間設定を工夫し4月からも開催していくことになりました。関心のある方は地域医療連携室または心理療法室にお問い合わせ下さい。

認知症医療

＜認知症事例検討会について＞

今年２月より肥前精神医療センターの橋本学先生と認知症治療病棟横田看護師長の協力のもと、当院と肥前精神医療センター間をネット回線で繋ぎ、テレビ会議室で認知症事例検討会を開催しています。

３月は当病棟に入院中で拒食・拒薬・幻覚・幻聴・被毒妄想のある患者様についての検討会を実施しました。

肥前精神医療センターの認知症治療病棟において、事例検討した拒食・拒薬のある患者様に類似した方への対応として、嗜好をご家族からお聞きし好物を差し入れしてもらったり、栄養科と相談し栄養補助食品を検討したりと様々な対応をされており、貴重なアドバイスを頂くことができました。

認知症治療・看護において、病院間での情報共有及び意見交換はとても重要なことであり、これからもより良い認知症治療を目指し、事例検討会を実施していきたいと思います。

重症心身障がい児医療

当院には、重症心身障がい病棟が2病棟あります。一方の病棟は、強度の行動障がい（他害、自傷、こだわりなど）をお持ちの方が多い病棟、もう一方の病棟は医療・身体的なケアが濃厚に必要な方々が主な病棟です。今回は、強度の行動障がいをお持ちの方が多い病棟でのエピソードをご紹介します。患者様Aさんは、統合失調症と精神発達遅滞の診断のついた方で、日常的な簡単な会話は出来る方です。ある夜のこと、Aさんは幻覚があったのか「透明人間が見ている、眠れない」と看護師に訴えたそうです。機転を利かせた看護師は、「連れていこうね」とAさんが見ている方向（当然誰もいませんが）に手を伸ばして、連れていったところ、Aさんがその後安眠出来たそうです。翌日その話を聞いた別の看護師が、同じようにAさんから訴えられたために同様の行動を取ったところ、Aさんはケラケラと笑っていたそうです。看護師の機転が功を奏したのか、Aさんに職員が遊ばれていただけなのか真実は分かりませんが、毎日様々な工夫をしながら、看護師はケアにあたっています。

アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い『飲酒欲求』を直接和らげてくれる作用があります。当院では2月現在、外来通院の患者様69名、入院中の患者様15名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。当院での実際の効果を判定するための調査を行う予定です。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療（ACT）

R-ACTチームの活動内容の紹介です。当院のACTチームは、既存のACTとは違い、24時間、365日の活動、多職種チームが固定とするチーム体制ではありません。通常の訪問看護チームと連携しながら活動を行っています。R-ACTへの対象者は、病状の重い方、作業所や、就労したいと考えている方へ、多職種チームで支援を行います。R-ACTの目標は、対象となる方が地域でその人らしい生活を、医療や地域の支援を受けながら安定した生活を送ることができるように一緒に悩み、考えながら夢や希望を応援しています。活動内容は、医療観察法通院対象者を含む13名の方に多職種チームが関わります。医療機関としての範囲で可能な取り組みを今後も行いたいと考えています。

臨床研究部活動状況

「宮古地域こころのケアセンターの取り組み」岩手医科大学　野田智子先生

東日本大震災から4年が経過しました。当院では2月13日に『東日本大震災の心ケアを振り返る－ 地元援助者ともに必要な支援を考える』をテーマに琉球セミナーが開催されました。岩手県宮古市の保健師、看護師、臨床心理士の先生方をお招きし、被災地の今と今後の支援についてご報告していただきました。今回はその中で、岩手県宮古地域こころのケアセンターで業務にあたっている野田智子先生のご報告を紹介させていただきます。宮古地域こころのケアセンターは沿岸部の市町村9万人をカバーし、被災者の心身の健康を守ることを目的に2012年に開所されました。災害から4年が経過した現在の地元の状況は、ハネムーン期－幻滅期にさまざまな葛藤、混乱、孤独感、絶望感を経て、再建期に至っているとのことでした。こころのケアに望まれることには被災者のニーズや状況にあわせた支援、地元の人々の尊厳を守ることなどご報告いただきました。

〒904－1201　沖縄県国頭郡金武町金武7958－1　代表電話　098－968－2133　地域医療連携室
http://www.hosp.go.jp/～ryukyu1/　ＦＡＸ　098－968－2679　ＦＡＸ　098－968－7370